

錦秋の森に遊ぶ

11/15 観察会(京都大学フィールド研究所上賀茂試験地)に参加して

20/11/15 宮城光夫

絶好の秋晴れのもと、試験地のシンボリックな「ラクウショウ」の近くの集合場所に観察会参加者が三々五々集まってくる。

見れば、さまざまな階層やタイプの人達が約 30 人。

元気一杯の子どもさんに引っ張られて来た親子連れ、若い女性グループ、マニアック感？のある男性、フィールド慣れ？した白髪の老人… なんかワクワクしてくる。

観察会が始まる。

皮切りはラクウショウ。

「これは何でしょう？」

清水リーダーがラクウショウの吸気根を指差しながらクイズを始める。

ヤンチャ坊主はジッとしていない。

「ウワッ 凄え！」

気根を叩いたり、撫でたり…

「はい、集中しましょう！」

クイズを始めます。

- ①木の切り株
- ②杭を刺した痕
- ③木の根
- ④別の木が生え出した

正解は③。流石、参加者は正解が多い。

「では、何のためにこんな風に地上に根が出てるのでしょうか？」

清水リーダーが、ようやく説明に入ります。

「これは別名をヌマスギと言います。～沼地で水に浸かった根は呼吸をするために水面から顔を出そうと伸びます～」



ここで、鋭い質問が飛び出しました！

「何で、此方の方角に多く出ているのですか？」

流石、鋭い観察眼です！

確かに、ある方向に気根の密度や高さが偏っています。

さあ、何故でしょう？！

回答は…「判りません」

斜面の傾斜？日照の方向性？他の樹木の被圧？

考えられる原因は沢山ありますが、この場で結論を出すのは早計でしょう…

次いで、ラクウショウの枝ぶりや葉の付き方、そして落ち葉を拾って観察してもらい、近隣にあるメタセコイアに移ります。

此处でまた葉の付き方や落ち葉を拾ってもらい、ラクウショウのそれと比較してもらいます。

そして初めて「互生」と「対生」の話に入ります。

いきなり解答を言わずに「観てもらおう→考えてもらおう」→ 清水リーダーの見事な進め方マジックにいつの間にか参加者は引き込まれていきます。

次いで観察するのはカンレンボク(喜樹)。

実を観てもらいます。

変わった形の実と付き方に感嘆する参加者も…。

「何故、喜樹と言うのですか？」

横にいた人から突然の質問が私に飛んで来ました。

『事前に調べておいて良かった！👍』

内心、ホッとしながら、

「抗癌作用のある物質を含んでいることから、癌に打ち勝つ樹…として喜樹と呼ばれているようです」

(ホッ)

次いでランシンボク(楷の木)に移ります。

ここでは葉の形を観てもらい、偶数羽状複葉の話をしてもらいます。

少し移動すると アベマキの樹。

ここではドンダリの帽子を拾って観察。

子供たちはもちろん、大人たちも童心に帰り、嬉々として拾います…。

(色々なドンダリの違いの観察の布石です。)



